

かけはし再要望項目一覧

平成25年度当初分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>(1) 旧鳥取高等農業学校校舎の保存について</p> <p>事業再編に伴って閉鎖、売却されることになった鳥取市南吉方3丁目の三洋電機工場敷地内に残る旧鳥取高等農林学校校舎を解体するとの報道がなされた。鳥取のメモリアル的な建築物であるので、鳥取市とも十分協議され、移転保存するために必要な予算措置を講じられたい。</p> <p>旧鳥取高等農林学校は鳥取大学の前身であり、鳥取の高等教育発祥の地である。加えて現存する校舎は、重要文化財に指定されている中央停車場（東京駅）や日銀本店を設計したことで知られる建築家の辰野金吾氏が設計し、大正時代に竣工した建築史でも高く評価される建築物である。しかも、農業学校の設置を望んだ県民の募金によって建てられたものであることも忘れてはならない。</p> <p>校舎の大部分は解体され、玄関部分660平方メートルだけが現存しているが、ルネッサンス様式を模した意匠が残り、十分に保存に値するものと考えている。解体、破壊されることは忍びないし、地域の文化を大切にしない県政であってはならないと考えている。現在地での保存が最も望ましいが、不可能ならば移築を前提に解体して部材を保管するなどし、鳥取大学などとも協議して敷地を確保して、保存していただきたい。</p>	<p>旧鳥取高等農業学校校舎は、学校建築として建てられた建物の大部分が失われ、玄関まわりを残すのみとなり、文化財的な価値が大きく減じたことから、国・県の文化財に指定をして保存することは困難である。</p> <p>なお、明治・大正期の学校建築としての資料的価値を考慮して、平成24年11月に鳥取市と協力して復元可能な記録保存を行ったところである。</p> <p>また、今後の利活用については、鳥取市において検討がなされているものと考えている。</p>
<p>(2) 漁業用燃油高騰対策支援について</p> <p>慢性的な原油高に加え、ここにきて急激な円安傾向が更なる漁業用燃油の高騰に拍車をかけている。</p> <p>現行1キロリットル当たり90,000円を超える燃油価格が、100,000円を超えることも予想されることから、漁業経営に悪影響を及ぼすことは必至である。</p> <p>については、鳥取県漁業者に対する緊急支援策を県として講じられるよう要望する。</p>	<p>燃油高騰対策については、イカ釣り漁船の操業効率化を図るためのスルメイカ漁場探索調査と漁船の作業灯等のLED化の支援について当初予算で検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業燃油高騰緊急対策事業 10,200千円 <p>なお、平成25年度から、燃油高騰による損失を補填するため国と漁業者が資金を積み立てる漁業経営セーフティネット構築事業による補填措置が拡充されることとされている。</p> <p>県としても、セーフティネット構築事業の未加入者に対する加入促進を図るための普及促進員を2月1日から県漁協に配置し、加入促進を図っているところである。</p> <p>今後とも燃油価格の動向を注視するとともに、関係者からもよく意見を伺いながら、効果的な施策を実施できるよう引き続き検討を進めていく。</p>

